



吉本みつる県議会レポート

発行 / 自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

分院の存続、必要性を強く訴え!

君津中央病院 大佐和分院の再編統合問題 地域医療の役割を反映させ

富津市選出で県議6期目を務める吉本充(よしもと・みつる)県議は、新年度予算案を主な議案とする2月定例会県議会の一般質問に登壇し、君津中央病院大佐和分院の再編統合問題を取り上げ、医療資源の少ない地域で医療提供を行っている公立病院の存続を強く訴えました。ほかにも、吉本県議が県政で一貫して主張している富津沖の第二海堡の調査・保存、行政改革に関連して千葉交響楽団への県としての支援策、さらに福祉や防災、地方創生など、森田知事ら県執行部に対し、地域の声を代弁してしっかりと届けました。吉本県議の質疑を特集しました。

調整会議で検討へ

吉本議員 昨年9月、国は公立病院等の再編統合を促すため、全国424の病

院名を公表しました。本県でも君津中央病院大佐和分院を含む10カ所の病院が、再編統合の議論が必要な病院として、名指しされました。



2月議会の本会議場に登壇した吉本県議

君津中央病院大佐和分院は、医療資源の少ない地域で、1日平均172人の外来患者を診療するなど、地域にとっては不可欠な病院です。このように、医療資源の少ない地域で医療提供を行っている病院の再編統合について、県はどのように対応するのか。
保健医療担当部長 君津中央病院大佐和分院は、国の分析によると、近隣に類似

の診療実績を有する医療機関があることとされ、地域医療構想に係る具体的な対応方針の再検証を行う医療機関として公表されたところだ。

再検証に際しては、今後、国から提供される分析データや、将来の医療需要等を踏まえ、対応方針の見直しの必要性や内容について改めて検討を行った上で、その検討結果について、地域医療構想調整会議で議論する

付加車線の設置で

吉本議員 館山自動車道の4車線化は、現在工事中の富津中央インターチェンジ(IC)から富津竹岡IC間が、来月6日に4車線運用を開始するとの発表がありました。

このように、館山自動車道の4車線化の完成が見えてきましたが、館山自動車道に続く富津館山道路は、依然として暫定2車線の対面通行であり、交通集中による渋滞や、安全

ことになりませう。なお、具体的な検討に当たっては、医療提供体制など君津地域の実情を十分に踏まえるとともに、これまでの協議状況等にも留意し、同会議において丁寧な議論を行うまいります。

再編統合ありきではなく、病院の方針見直しの必要性も含め、君津地域の実情を十分踏まえるという答弁をいただきました。

私としては、大佐和分院は地域にとって、なくてはならない病院と考えています。単なるデータだけではなく、地域で果たしている役割や必要性について、地域の関係者から意見を聞いた上で、地域医療構想調整会議で、十分に検討していただくよう要望します。

性などに課題があります。そこで伺います。富津館山道路の4車線化の状況はどうか。

県土整備部長 富津館山道路の交通量は、1日平均で1万台を超えており、特に交通が集中する休日の夕方には、上り線の金谷第一トンネル付近を先頭に、鋸南保田IC付近まで渋滞が発生しています。

このため、安全で円滑な交通を確保し、観光振興や

富津館山道路の4車線化要望

県としては、早期に付加車線の設置が図られるよう、沿線市町と連携し、東日本高速道路株式会社に最大限協力していくとともに、全線の4車線化に向け、国に働きかけてまいります。

●県政と富津市に関するご相談・ご要望をお気軽にお寄せください。

吉本充 県議事務所 〒299-1606 富津市数馬421-5 TEL.0439-29-5502

第一海堡は貴重な土木遺産

保存の働きかけ国へ要望



立ち上がり再質問する吉本県議

月末には報告書が作成されると聞いています。

県教育委員会としては、当該調査結果を入手し、第一海堡の現状を把握するとともに、文化財調査が行えるよう、引き続き所有者である財務省に対し、不発弾の調査や処理、護岸の崩落防止、船

不発弾調査と処理

吉本議員 富津沖の第一海堡・第二海堡は同じものが二つとない貴重な近代海土木遺産であり、このまま波による崩落に任せていたのでは、護岸がすべて崩れてなくなってしまう、待ったなしの状況です。

第一海堡の保存について、最近の状況はどうか。

澤川教育長 富津第一海堡跡は、明治から大正にかけて人工島に造られた砲台群で、近くの第二海堡とともに、海洋土木技術の歴史を語る上で欠くことのできない重要な遺跡と認識しています。

第二海堡については、現在、不発弾の調査が完了してい

ないため、立入禁止となっておりますが、国土交通省が第二海堡の保存・管理等を行うため、その基礎資料として、第一海堡の測量等を行っているところであり、3

着き場の復旧等の工事について、富津市と連携しながら要望してまいります。

要望 第一海堡は、護岸の崩落防止を第一優先とし、引き続き、財務省に対し、復旧等の工事を早期に実施するよう、強く働きかけることを要望します。

動物救護センター 南総地区へ設置要望

吉本議員 災害発生時に住民が適切な避難行動をとれる仕組みづくりは、地域防災の観点から大変重要です。

災害時に県が設置する動物救護センターは、ペットの飼い主が安心して避難できるための一助として機能する

ものと考えますが、今回、

月末には報告書が作成されると聞いています。

県教育委員会としては、当該調査結果を入手し、第一海堡の現状を把握するとともに、文化財調査が行えるよう、引き続き所有者である財務省に対し、不発弾の調査や処理、護岸の崩落防止、船

着き場の復旧等の工事について、富津市と連携しながら要望してまいります。

置場所については、富里市の県動物愛護センター、柏市の県動物愛護センター東葛飾支所に加え、いすみ市、館山市、君津市のそれぞれ

市街化調整区域 地域に合った基準見直し

吉本議員 現在、県において、市街化調整区域の資源を生かした開発基準の見直しを行っているとのことですが、その概要はどのようなものか。

都市整備局長 市街化調整区域の人口減少・高齢化等が進んでいる地域がみ

られる中で、県では関係す

にある、動物を一時保管する県の抑留所が候補となりますが、実際の設置場所は被災状況により決定してまいります。

動物救護センターでは、被災した地域での救護活動の拠点として、避難所における飼育指導や餌の配布などのほか、飼育困難なペットの一時保管に加え、千葉県獣医師会の協力を得て、負傷動物の治療を行います。

なお、当該センターの設置場所については、富里市の県動物愛護センター、柏市の県動物愛護センター東葛飾支所に加え、いすみ市、館山市、君津市のそれぞれ

また、既存の県有施設である動物愛護センターは、老朽化が進んでいることから、改修等施設の充実についても併せて要望します。

市街化調整区域 市街化調整区域における開発基準の見直し

市街化調整区域における開発基準の見直しですが、県は地域のことを考え、市町村と協力し、

開発基準の見直しを進めるとい

うことなので安堵しました。



県立博物館を視察する吉本議員ら



壇上から知事らに質問する吉本県議

具体的には、古民家や空き家、廃校の物販や宿泊施設等への転用、農業振興のための農産物直売所、農家レストランや農業体験施設、地域の特性を生かした工場などの立地を可能とするものです。

現在、審査基準の見直しについて、パブリックコメントを実施しており、県民の意見を踏まえた上で、市街化調整区域において秩序ある開発が行われるよう、努めてまいります。

また、社会情勢の変化や要請に伴い、今後も開発基準の見直しについて検討していくことを併せて要望します。

また、社会情勢の変化や要請に伴い、今後も開発基準の見直しについて検討していくことを併せて要望します。

児童心理治療施設へ

県の手厚い支援を要望

心に傷を抱える子供たち

吉本議員 私の地元、富津市には県内で唯一の児童心理治療施設である「望みの門木下記念学園」があります。平成28年5月に、県内の児童相談所や児童福祉施設関係者の熱い期待により開所した民間の児童福祉施設です。

ここに入所している子どもたちは、親からの虐待や不適切な養育などにより、心に深い傷を抱え、日常生活に多岐にわたり生きづらさを感じている子どもたちで、心理治療(カウンセリング)を中心に、学校教育との緊密な連携による総合的な治療と支援を行なっています。

子どもたちのどんな小さな努力も認め、励まし、真摯に向き合い続ける職員の苦労は計り知れないものがあります。その支援の難しさから、最近では運営に支障が出ているという声も聞いています。そこで伺います。

健康福祉部長 児童心理治療施設「望みの門木下記念学園」は、平成28年5月に定員30人で開所し、現在17人の児童が児童相談所の措置により入所しています。入所児童は、施設内で精神科医師や臨床心理士による

専門的な治療を受けながら併設する学校に通い、保育士や児童指導員と24時間生活を共にし、虐待や不適切な養育により受けた心の傷を癒しています。

施設の安定運営に向け

吉本議員 2点目として、県は課題についてどのように対応しているのか。

健康福祉部長 県はこれまで、施設と児童相談所との協議の場を設定し、入所を必要とする児童の調整や時保護児童の受け入れの推進など、入所児童が増員するよう取り組んできました。

要望 児童心理治療施設は、長い間県内で必要性が叫ばれてきましたが、運営や支援の難しさからどの社会福祉法人も二の足を踏んでいたところ、現在の運営法人が英断して設立した経緯があります。子どもたちが安心して心の傷を癒し、成長・自立していくためには、安定した施設運営が必要です。県内唯一の施設であることから、県の手厚い財政支援を要望します。

多様な人材の活躍へ

吉本議員 次に「地方創生」について伺います。国においては、昨年末に第2期「まちひとしごと創生総合戦略」を閣議決定し、地方創生の実現に向け、「継続は力なり」という姿勢を基本に、第1期戦略にも掲げていた働く場や、子育て環境、安心して暮らせる環境づくりなど4つの基本目標を継続するとともに、新たに「多様な人材の活躍を推進する」などの横断的目標を設定し、取り組みを加速させていくこととしています。

県内では、さまざまな分野における人出不足は加えて昨年の台風15号と19

また、施設の特徴を生かした小規模グループケア加算の申請や、適正な定員の見直しなどによる運営費の増収に関する助言も行ってきたところですが、

このため、第2期戦略の検討に当たっては、台風等による被害の影響も含めた中長期的な課題にしっかりと向き合う必要があると考えます。

と創生総合戦略」が昨年12月20日に閣議決定されたことを受け、第2期「千葉県地方創生総合戦略」の策定を進めているところです。

策定に当たっては、さまざまな分野における人手不足の深刻化などの新たな課題に加え、昨年の台風・大雨による災害からの復興の状況に、的確に対応していくことが重要と考えています。

戦略策定の検討状況

吉本議員 本県の第2期戦略策定の検討状況はどうか。

このため、第2期戦略については、市町村や関係者の意見も丁寧に向いながら、今年度中に骨子を作成・公表し、その後パブリックコメントを実施の上、来年度の早い時期での策定を目指していきたいと考えています。



自席から要望を述べる吉本県議

今後も引き続き、施設の安定運営に向け、助言を行うと

野における人出不足は加えて昨年の台風15号と19

第2期「まち・ひと・しごと

地方創生の第2期戦略策定

「千葉県地方創生総合戦略策定懇談会」を開催し、有識者から意見を伺うとともに、県内各地域ごとに市町村との意見交換を行いました。

とが重要と考えています。このため、第2期戦略では「復興と更なる発展に向けた力強い千葉の人と仕事づくり」を新たな柱に掲げ、人材の確保・育成や、地域産業の高付加価値化などの視点のもとで、地域産業や商工業の地域産業が持続的に発展していく千葉県づくりに目指してまいります。



本会議場に立つ吉本県議

千葉交響楽団への支援を要請

行政改革とは何かを問う

学校音楽鑑賞教室

吉本議員 行政改革は何のために行うのか。私は、行政を精査することにより、県民の皆様からお預かりした税を、より良い県民サービスとして提供できるようにすることこそが、真の行政改革の目的だと考えております。

そこで、一例を挙げると、見直し団体の一つとされている千葉交響楽団は、平成28年4月に策定された改革方針でも、関与縮小の区分は変わらず、「県依存型経営から速やかに脱却する」とされています。

千葉交響楽団は、昭和60年には、昭和60年に

設立されて以来、これまで34年間にわたり、学校音楽鑑賞教室をはじめとした地域に根差した音楽活動を行い、本県の文化芸術振興のために大きな役割を果たしてきました。

そこで伺います。県が実施している千葉交響楽団による学校音楽鑑賞教室の現状はどうか。

オーケストラ演奏も

吉本議員 未来を担う子どもたちのために、県は学校音楽鑑賞教室を今後さらに拡充すべきではないか。

環境生活部長 学校音楽鑑賞教室では、プロのオーケストラの演奏に加え、楽器の紹介や児童・生徒による指揮者体験なども実施し、開催校からは「音楽への興味・関心が高まった」、「間近で聴くオーケストラはすごい迫力」といった感想が寄せられるなど、大変好評であり、子どもたちが良質な音楽を生で聴く貴重な機会となりました。すると、オーケストラの皆さんも感銘した様子で、その後の意見交換会も、時間をオーバーして和やかに行われました。

計48回開催しています。また、県立の特別支援学校については、すべての学校で2年に一度鑑賞できるようにしており、今年度は18校で開催しています。

今後は、学校音楽鑑賞教室を通じて、より多くの児童・生徒に対し、文化芸術に親しむ機会を提供できるように、学校等にも意見を聞きながら見直してまいります。

吉本議員 「見直していただきたい」とのことですが、負担割合の変更や上限の撤廃を検討してはどうか。

環境生活部長 学校音楽鑑賞教室の見直しに当たっては、希望のあったものすべてを実施できているもの、開催回数はここ数年横ばいとなっています。

現在、希望のあったものはすべて実施できているものの、開催回数はここ数年横ばいとなっています。

「応援する会」が発足

吉本議員 千葉交響楽団は、本県の文化芸術振興のために大切なものであり、今後も支援を継続していくべきだと思っております。

環境生活部長 千葉交響楽団は、オーケストラによる音楽芸術の普及向上に

より、本県の文化の振興に寄与することを目的とした団体であり、学校音楽鑑賞教室のほか、県内各地で演奏活動を行うなど、県民が気軽に親しむことができる場を提供しています。

こうした地域に根付いた演奏活動の実績等から、最近では、県民の間で同楽団を応援する機運が高まっております。

2月県議会一般質問に登壇

議場のあつらひ

吉本県議

昨年5月、森田知事とともにドイツとオランダに公務出張し、オランダ王国オリンピック委員会と、東京オリンピックにおける水泳ピックにおける水泳チームの事前キャンプに係る協定締結式が行われました。

その際、私は、私のスピーチでかつての東京オリンピック柔道無差別級でオランダのアントン・ヘーシンク選手と神



署名式の後、急ぎよ運ばれたヘーシンクの等身大パネル(中央の前で、オランダ王立水泳連盟のフアンザイツ会長と)



壇上で熱く語る吉本県議

公社等の改革方針

吉本議員 行政改革審議会からの答申を踏まえ、県で決定している「公社等外部団体の改革方針」の内容について、見直すことはあるのか。

総務部長 「公社等外部団体の改革方針」については、その時々々の社会経済情勢、行政と民間の役割分担の考え方、県民ニーズ等の変化に応じて概ね3年から5年おきに見直しており、これまでも個々の団体の状況を

踏まえ、方針の見直しを行ってまいりました。次回の見直し時期は未定ではありますが、来年度作業に着手してまいりたいと考えています。

お知らせ

吉本県議の一般質問の模様は、県議会のホームページから、県議会中継(録画)ですべてご覧いただけます。



答弁に聞き入る吉本県議